

イスラム国家論研究会例会略史

(1975~1987年)

昭和50年度

第1回	9月26日	清水 宏祐	イスラム国家論：セルジューク朝の場合
第2回	10月17日	小松 久男	青年ブハラ人運動について
第3回	11月21日	堀 直	東トルキスタンにおけるイスラム国家論
第4回	12月19日	八尾師 誠	イラン立憲革命におけるイスラム国家論
第5回	1月16日	堀川 徹	ティームール朝末期における権力抗争について
第6回	2月20日	北川 誠一	イスラム国家とバグラット朝
第7回	3月19日	[シンポジウム]	1) イスラム諸国家内の民族呼称の諸問題 2) イスラム諸国家内の政治的党派潮流 3) イスラム諸国家内の統治理念 4) イスラム諸国家内の軍隊の生活・構造

昭和51年度

第8回	7月3日	山内 昌之	イスラム世界における民衆運動：トルコ革命とパルチザン
第9回	9月4日	片岡 一忠	中国イスラム史上の諸問題：特に17・18世紀のイスラムを中心として
第10回	10月22日	林 清一	オスマン朝統治下のエジプトのスーフィー教団
第11回	11月26日	羽田 正	サーマーン朝の性格：特にカリフとの関係から考えて
第12回	12月17日	尾高 晋己	19世紀中葉北西ブルガリアにおける大土地 (Gospodarik) について
第13回	1月21日	四宮 宏貴	インド独立の過程におけるクリップス使節団の役割：パキスタン独立にふれて
第14回	2月25日	水谷 周	現代イスラムの思想：Musa著『イスラムの統治組織』について
第15回	3月25日	杉原 達	バグダード鉄道論

昭和52年度

第16回	4月22日	加藤 博	中世エジプトの貨幣事情
第17回	6月24日	設楽 国広	青年トルコ運動をめぐって
第18回	10月26日	米林 仁	オスマン朝早創期における軍事集団：オスマン朝初期年代記を中心として
第19回	11月25日	井谷 鋼造	ルーム・セルジューク朝とホラズムシャーの戦いについて
第20回	12月16日	勝股 行雄	アッパース朝末期における官僚政治の展開

第21回	1月27日	[シンポジウム]	初期イスラム国家論：君長権をめぐって
		後藤 明	
		花田 宇秋	
		清水 宏祐	
第22回	2月24日	相野 洋三	ビザンツ・アラブ交渉史：648～965年のキプロス史をめぐって

昭和53年度

第23回	4月28日	加納 弘勝	イランの都市：最近のハマダンとマライェル
第24回	5月26日	竹田 新	イブン・ホルダーズベの諸道と諸国の書について
第25回	6月30日	私市 正年	イブン・トゥーマルトによるムワッヒド集団の組織化について
第26回	7月21日	松原 正毅	トルコの村の宗教について
第27回	11月10日	堀内 勝	アラビアの夜と昼
第28回	12月8日	坂本 勉	19世紀イスファハーンのバーザールをめぐる諸問題
第29回	1月26日	[シンポジウム]	遊牧をめぐる諸問題
		佐藤 次高	
		後藤 明	
		永田 雄三	
		吉田 順一	
第30回	2月23日	羽田 亨一	初期サファヴィー朝の性格
第31回	3月16日	山本 太平	乾燥地農業と砂

昭和54年度

第32回	5月25日	原 隆一	イランの農村について
第33回	6月29日	中野 暁雄	モロッコの農業生活誌
第34回	9月28日	石田 智子	ギリシア留学から帰って
第35回	10月26日	梅村 担	草原とオアシス：ウルムチからトゥルファンへ
第36回	11月30日	森川 孝典	ガザリーの異端派批判
第37回	12月14日	真田 安	近代カシュガリア・オアシスにおける権力構造
第38回	1月25日	小田 寿典	トルコ族のイスラム受容とその性格
第39回	2月29日	小松 久男	トルコ系ムスリム地域史の設定をめぐって
第40回	3月28日	佐藤 次高	スルタン・パイバルス時代のイクター

昭和55年度

第41回	5月23日	[シンポジウム]	イスラムの歴史家たち (1)
		小山皓一郎	
		加藤 和秀	
		花田 宇秋	

第42回	6月20日	木村 喜博	現代シリアの政治
第43回	7月18日	八尾師 誠	イラン革命見聞記
第44回	10月 3日	福田 安志	エジプトの灌漑農業について
第45回	11月28日	禿 仁志	イラン見聞記
第46回	1月30日	〔シンポジウム〕	イスラムの歴史家たち (2)
		志茂 敏敏 石原	
		佐藤 次高	
		鈴木 董	
第47回	2月27日	菊池 忠純	エジプトにおける最近の中世史研究
第48回	3月27日	浜田 正美	スーフィーの夢

昭和56年度

第49回	4月24日	山内 昌之	ソ連邦における現代イスラム
第50回	5月29日	小牧 昌平	近代イランの改革思想：マルコム・ハーンを中心に
第51回	6月26日	清水 宏祐	オスマン朝以前のアナトリア
第52回	10月 2日	設楽 国広	青年トルコ人革命とオスマン朝政府
第53回	10月23日	藤井 守男	立憲革命とターレブーフ
第54回	11月27日	山本佳世子	15世紀のイスタンブール：メフメト2世の建設事業を中心として
第55回	12月11日	〔シンポジウム〕	メッカ巡礼をめぐる (1)
		永積 昭	
		家島 彦一	
第56回	1月29日	〔シンポジウム〕	メッカ巡礼をめぐる (2)
		坂本 勉	
		私市 正年	
第57回	3月27日	〔シンポジウム〕	メッカ巡礼をめぐる (3)
		磯崎 定基	

昭和57年度

第58回	5月28日	鈴木 董	オスマン朝のパシャたち：回暦700年から1200年まで
第59回	7月 2日	熊谷 哲也	ファーティマ朝末期の軍事勢力
第60回	9月25日	高山 博	12世紀シチリアにおけるノルマンの財務行政機構
第61回	10月29日	林 徹	トルコ語の東黒海地方の方言について
第62回	11月26日	宮武 志郎	14～15世紀におけるオスマン・トルコへの大砲の移入について
第63回	12月17日	〔シンポジウム〕	王朝最後の戦い：王朝が滅びる時
		花田 宇秋	
第64回	1月28日	竹下 政孝	初期シーア派の異端・ハッターブ派の思想と影響

第65回	2月25日	斎藤 正樹	チュニジア留学記
------	-------	-------	----------

昭和58年度

第66回	6月25日	新井 政美	ゲンチ・カレムレルと青年トルコ人
第67回	10月 5日	山本由美子	フワルナについて
第68回	11月 9日	鎌田 繁	イブン・アラビーの『完全人間』について
第69回	12月 3日	〔シンポジウム〕	イスラム世界における任侠集団
		佐藤 次高	
		八尾師 誠	

昭和59年度

第70回	6月 2日	保坂 修司	ノアの箱舟説話について
第71回	6月30日	東長 靖	イブン・アラビーについて
第72回	10月27日	新谷 栄治	スルターン・ジェム時代のオスマン朝とヨーロッパ
第73回	11月24日	川本 正知	スフラワルディー教団の修業：Kitab Adab al-Muridin の内容について
第74回	2月 2日	小野 浩	Ard-nama について：アク・コユンル国制理解の手がかり

昭和60年度

第75回	7月 6日	太田 敬子	ミルダース朝に関する一考察
第76回	10月26日	白井 正博	エジプトの立憲制について
第77回	12月 7日	菟原 卓	ファーティマ朝カリフ＝ムイッズ：イスマイール派神政君主像
第78回	2月15日	稲葉 穂	Sultan Mas'ud 時代の Mahmudiyan と Mas'udi-yan

昭和61年度

第79回	4月12日	〔シンポジウム〕	商人
		坂本 勉	
		松木 栄三	
		小松 久男	
第80回	6月 7日	福田 安志	オマーンの印象：自然と部族社会
第81回	7月 5日	新免 康	19世紀動乱期のトルファン
第82回	11月 8日	川口 琢司	チャガタイ＝ハーン国末期の有力集団とティームール
第83回	12月13日	大稔 哲也	モスル・アタベク王朝の行政官僚
第84回	3月14日	医王 秀行	初期アッバース朝のカーディー職

【1993年度の案内】

昭和62年度

第85回	4月25日	〔シンポジウム〕 ワクフ 岡崎 正孝 愛宕あもり 林 佳世子	
第86回	6月 6日	三沢 伸生	オスマン朝下の東アナトリアにおける遊牧民
第87回	7月 4日	黒木 英充	19世紀アレップにおける騒乱と社会変動
第88回	10月17日	広田 淳	ハルジー朝アラー・ウッディーン政権の成立： 「ヒンドゥスターン」を中心に
第89回	11月14日	赤松 立太	エスニシティ再考
第90回	12月12日	桜井 啓子	イラン革命と公教育
第91回	1月23日	長谷部史彦	カイロの食糧暴動とマムルーク朝の政策：14世紀末-15世紀初頭を中心として
第92回	4月23日	J.E. Philips	Malam Haliru's History of Wurno

1993年
イスラム国家論研究会
6月例会のお知らせ

暑かったり寒かったりと落ちつかない毎日が続いておりますが皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
盛会に終わりました先月に引き続き、新生国家論2回例会を開催いたします。今回は今春大学院に進されました黒岩さんに、中国ムスリムと神秘主義教についての発表・問題提起をお願いしました。またにコメンテーターも予定しております。
自らの専門地域、分野を越えた多数の方の御出席呼びかけて参りたいと思います。ご多忙とは存じますが宜しくお願い申し上げます。

日時： 6月12日（土）午後1時半～5時
会場： 東洋文庫
報告者： 黒岩 高（東京大学大学院）
題目： 18世紀中国西北部の
イスラム聖者をめぐる社会集団形成

東洋文庫中央アジア・イスラム研究室
文京区本駒込2-8-21 (tel.942-0121)

東洋文庫土曜閉館のため入館に際し、身分証の提示と出入簿の記名をお願いいたします。

1994年

イスラム国家論研究会

第3回シンポジウムのお知らせ

梅雨の到来を間近にひかえ、暑さを感じる季節となりましたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。
国家論研究会では6月例会として、本年度前半期のシンポジウム「イスラームにおける文学と歴史意識」を開催致します。
歴史学、文学、思想といった既存のディシプリンへの挑戦が叫ばれる現在、もう一度我々の学問認識を根底から見直し問題提起をしてみたいと考えています。パネラーにも文学、歴史、イスラーム学を専攻とされる方々をお招きし、真剣な討論が交わされるものと期待しております。
是非とも、多数のご参加をおまちしております。

日時：6月18日（土）午後1時半～5時
発表：岡 真理（東京外国語大非常勤講師）
近藤 信彰（東大・大学院東洋史）
コメント：山中 有里子（東洋文化研助手）
山尾 京子（東大・大学院イスラーム学）

東洋文庫 中央アジア・イスラム研究室
〒113文京区本駒込2-28-21 03-3942-0121

東洋文庫土曜閉館のため入館に際して、身分証の提示と出入簿の記名をお願い致します